

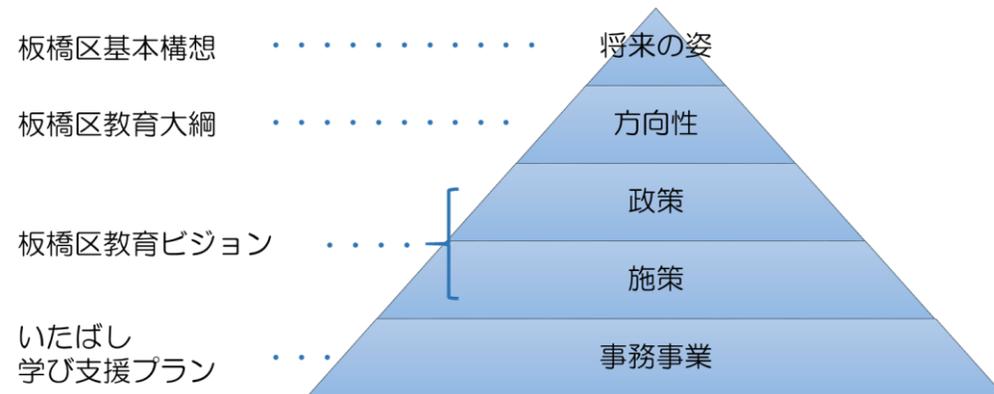
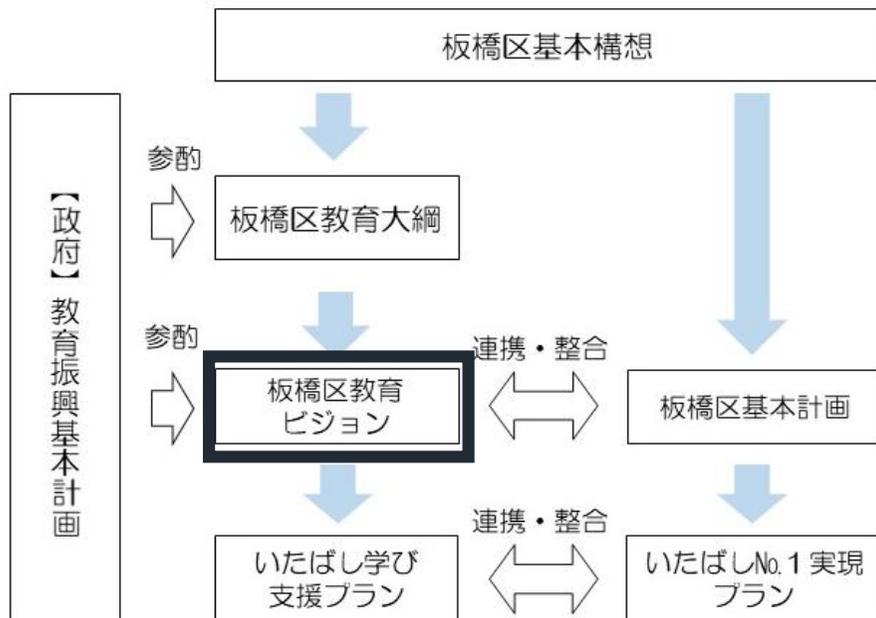
前回の検討委員会の振り返り

令和 6 年 7 月 18 日 午前 10 時～正午
第 2 回板橋区教育ビジョン 2035 検討委員会

板橋区教育ビジョン2035について

■板橋区教育ビジョン2035とは

「板橋区基本構想」に示された教育分野の将来の姿、及び、区長と教育委員会が総合教育会議で協議し、区長が決定する「板橋区教育大綱」における教育施策の方向性の実現に向けて、中長期的な施策体系を定め、総合的・計画的に推進していく指針とする。



板橋区教育ビジョン2025の成果と課題

主な成果

- 授業革新に取り組み一定の学力が向上
- 一人一台端末、高速大容量通信ネットワーク等を整備（GIGAスクール構想）
- 近隣の小中学校で学びのエリアを設定し、9年間を見通した取組を推進
- 通級による指導である「STEP UP教室（特別支援教室）」を全小中学校に設置。
- 日本語指導が必要な子どもに対して、日本語適応指導、通訳支援、日本語学級を実施
- 教室以外の居場所を全小中学校に整備、SC・SSWを増員配置する等、不登校への取組を強化
- 放課後の居場所「あいキッズ」を整備
- 中高生・若者の活動や学習支援の場、居場所として「i-youth」を運営
- 「板橋区コミュニティ・スクール（iCS）」で、学校運営に保護者や地域の方が参画
- 多世代の方の学習活動拠点と交流の場として「板橋グリーンカレッジ」を運営
- 中央図書館が「絵本のまち板橋」の発信拠点として取組を推進

主な課題

- 学力の定着・伸長
- 画一的な全員一斉授業
- 幼児の発達に必要な直接的・具体的な関わり、豊かな体験
- 学校段階間のつまずき
- 子どもの権利等の理解
- 子どもの多様化への対応（特別な支援、日本語指導が必要な子ども増）
- いじめの発生や深刻化
- 学校教育になじめない子ども
- 不登校児童生徒数が過去最多
- 教員が本来の業務に専念できていない
- 地域・家庭の教育力低下
- 学校施設の老朽化
- 社会人の学び直しが不十分
- 子どもの多様な成長機会の確保
- 次世代へ文化財の確実な継承
- 情報化の加速度的な進展に関する対応
- エビデンスに基づいた教育活動
- 教育活動の情報発信

今後の検討テーマ

第2回

子ども一人ひとりのよさや可能性を引き出し、伸ばす学びの推進

- 学力の定着・伸長
- 画一的な全員一斉授業
- 幼児の発達に必要な直接的・具体的な関わり、豊かな体験
- 学校段階間のつまずき
- 子どもの権利等の理解
- 子どもの多様化への対応（特別な支援、日本語指導が必要な子ども増）等

第3回

子どもの学びや成長を支える人や環境の充実

- いじめの発生や深刻化
- 学校教育になじめない子ども
- 不登校児童生徒数が過去最多
- 教員が学校本来の業務に専念できていない
- 地域・家庭の教育力低下
- 学校施設の老朽化 等

第4回

生涯にわたり学び支え合う教育の推進

- 社会人の学び直しが不十分
- 子どもの多様な成長機会の確保（部活動地域移行）
- 次世代へ文化財の確実な継承 等

共通

教育活動を支える基盤づくり

- 情報化の加速度的な進展に関する対応
- エビデンスに基づいた教育活動
- 教育活動の情報発信 等

前回の検討委員会を踏まえて…

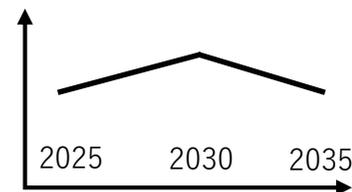
□委員より

2035年に板橋区を取り巻く社会はどうなっていると予測されているか。

■板橋区の将来人口推計（2025年・2030年・2035年の推計）

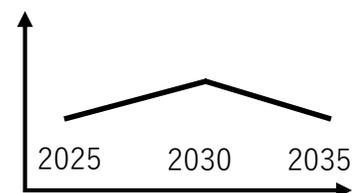
総人口 ▶ 2030年がピーク（586,566人）。

2025年と2035年の比較で横ばい。

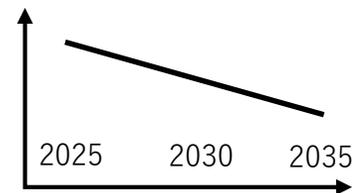


0～14歳 ▶ 2030年がピーク（63,866人）。

2025年と2035年の比較で横ばい。

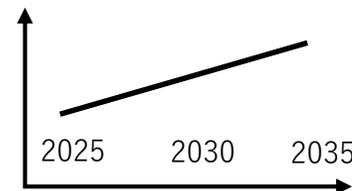


15～64歳 ▶ 2025年をピーク（362,625人）に減少傾向。



65歳以上 ▶ 増加傾向で、2035年には150,465人で、

高齢化率は25.7%。



2040年の社会のイメージ「人間性の再興・再考による柔軟な社会」

人間らしさを再考し、多様性を認め共生する社会

リアルとバーチャルの調和が進んだ柔軟な社会

無形／個人

有形／個人

無形／社会

有形／社会



人間機能の維持回復とデジタルアシスタントの融合による「個性」が拡張した社会

カスタマイズと全体最適化が共存し、自分らしく生き続けられる社会

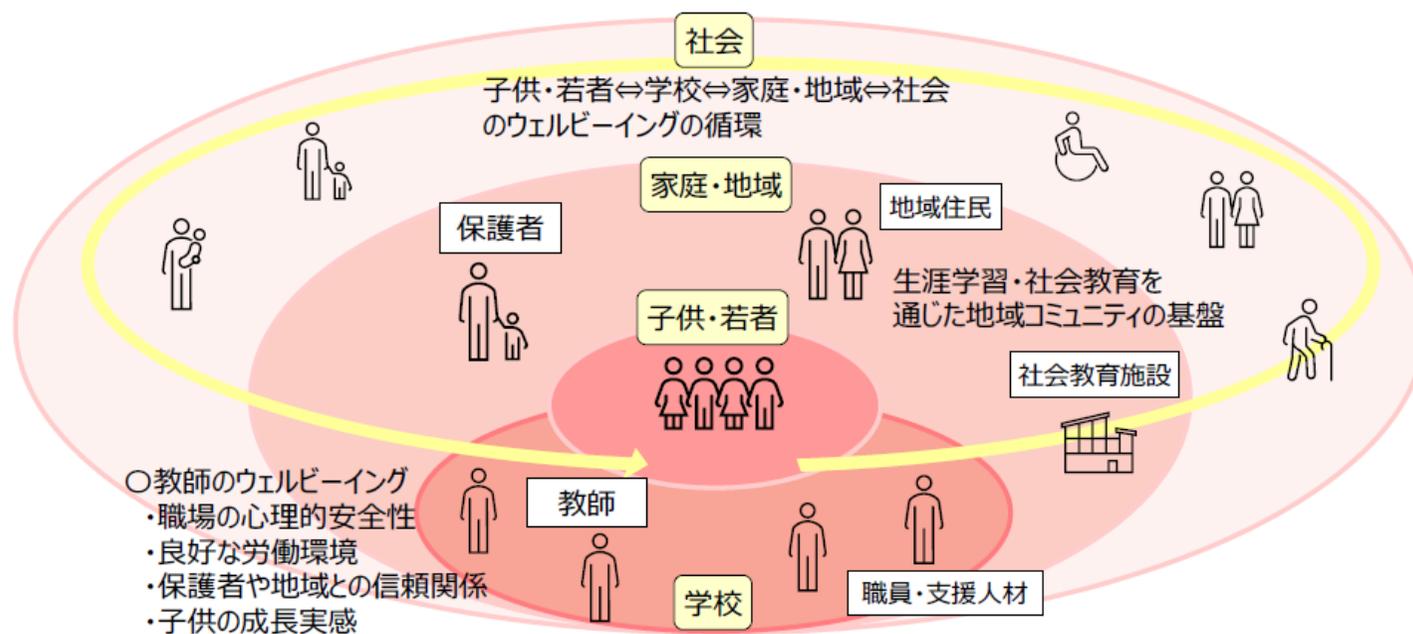
前回の検討委員会を踏まえて…

□委員より

これからの社会を考えるにあたって、「ウェルビーイングの向上」はキーワード。

■ウェルビーイングとは…

- 「身体的・精神的・社会的に良い状態であること」であり、「生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念」。
- 「多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態」。



出典：「次期教育振興基本計画について（答申）参考資料・データ集（文部科学省）」

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1412985_00005.htm) (2024年6月20日に利用)

前回の検討委員会を踏まえて…

□委員より

2035年に向け、板橋区が何をめざしていくのか。

■将来の姿（試案）（※）

- ▽ 家庭、保育所・幼稚園、学校、地域が連携・協働しながら、安心・安全で、子ども一人ひとりが自分らしく幸せに成長でき、笑顔あふれる社会をつくっています。
- ▽ また、教員が、社会の変化を受け止め、学び続けながら、様々な専門スタッフと、子ども一人ひとりに伴走しながら、学びや成長を支えています。
- ▽ そのような中で、多様な子どもの状況に応じた学びを通して、これからの社会を生き抜く力がはぐくまれています。
- ▽ いつでもどこでも、ライフステージにあわせて、学び合う、生涯学習社会が、「ひと」と「ひと」、「ひと」と「まち」をつなぐコミュニティを形成し、誰もが、豊かな人生を歩んでいます。

前回の検討委員会を踏まえて…

■将来の姿（構造分解）

●：課題 ○：施策

▽ 家庭、保育所・幼稚園、学校、地域が連携・協働しながら、
安心・安全で、子ども一人ひとりが自分らしく幸せに成長でき、
笑顔あふれる社会をつくっています。

- 地域の教育力の低下
- 地域コミュニティの弱体化 ●核家族化の進展
- 学校が担う分野・機能の多様化、業務量の増大
- 地域と共にある学校 ○iCS
- 青少年の健全育成 ○産官学民との連携
- チーム学校 ○部活動改革

- 不登校の増加 ●いじめの増加 ●経済格差による
学びの機会の格差 ●少子化の進行 ●施設の老朽化
- 居場所 ○共生社会 ○SDGs
- 誰一人取り残さない
- 教育環境向上・老朽化対策の一体的施設整備
- こどもまんなか社会 ○ウェルビーイング

▽ また、教員が、社会の変化を受け止め、学び続けながら、
様々な専門スタッフと、子ども一人ひとりに伴走しながら、学びや成長を支えています。

- 教員の多忙化
- 学校が担う分野・機能の多様化、業務量の増大
- 教員の指導力向上 ○教育DX ○ICTの活用

- 学校が担う分野・機能の多様化、業務量の増大
- 教員のなり手不足
- 働き方改革 ○部活動改革 ○チーム学校
- 学校管理職のリーダーシップ ○ウェルビーイング

前回の検討委員会を踏まえて…

▽ そのような中で、多様な子どもの状況に応じた学びを通して、
これからの社会を生き抜く力がはぐくまれています。

- 特別な支援を要するこども ●多様性 ●貧困
- ヤングケアラー ●不登校・いじめの増加
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実
- インクルーシブ教育 ○共生社会
- 誰一人取り残さない ○幼児教育の質の向上
- 学力向上 ○教育DX ○ICTの活用

- 将来の予測が困難な時代 ●VUCA
- 地球温暖化 ●グローバル化 ●先進国から脱落
- Society5.0時代 ●技術革新 (AI・DX)
- 新しい時代に求められる資質・能力の育成
- 持続可能な社会の創り手 ○ウェルビーイング

▽ いつでもどこでも、ライフステージにあわせて、学び合う、生涯学習社会が、
「ひと」と「ひと」、「ひと」と「まち」をつなぐコミュニティを形成し、
誰もが、豊かな人生を歩んでいます。

- 単線的な学び・進路 ●学びの一過性
- 高度専門人材の不足 ●労働生産性の低下
- 複線的な学び・進路 ○学びの循環
- 社会人の学び直し ○リカレント教育

- 共生社会
- 誰一人取り残さない

- 健康寿命の延伸 ●価値観の変化 (モノの豊かさ→心の豊かさ)
- 人生100年時代
- ウェルビーイング